

みなさんお久しぶりです！みなさんに早く会いたいです！

第二回目の国語のお話「**こういうのがサッとでてくるとなんだかカッコいいよね**」シリーズ
その2 は…「**月の異名**」です。（2年生の皆さんは、去年覚えましたね！）

日本では、万葉集時代（！）から明治5年まで、**月の満ち欠けを基にしたカレンダー**
「**陰曆（旧曆）**」を使用していました。（ちなみに現在のカレンダーは、地球が太陽の周りを回る周期を基にした「**太陽曆（新曆）**」。）

旧曆は、今とは春夏秋冬の季節が少しずれており、1月～12月の呼び方が今とは異なるものでした。今日は、呼び方（異名）とその由来を紹介します。（諸説あります。）

～春～

1月…睦月（むつき）。お正月にみんなが集まって、**仲睦まじく**過ごすから。
2月…如月（きさらぎ）。もとは「**衣更着（きさらぎ）**」。寒さが厳しく重ね着をする頃。
3月…弥生（やよい）。「**弥…いよいよ・ますます**」「**生…草木が生い茂る**」季節だから。



～夏～

4月…卯月（うづき）。「**卯の花（ウツギの木の花）**」が咲く季節だから。
5月…皐月（さつき）。「**苗を植え始める月**」を意味する「**早苗月**」から。
6月…水無月（みなづき）。どこの田んぼにも水が多くあるから。
（「無」は「ない」ではなく、「～の」という意味だそう。ということで、「**水の月**」。）



（卯の花↑）

～秋～

7月…文月（ふみつき・ふづき）。七夕に、短冊に歌や字を書いて書道の上達を願ったので。
8月…葉月（はづき）。現在の9月頃にあたるので、秋であり葉が落ちることから「**葉月**」。
9月…長月（ながつき）。秋の夜長という意味の「**夜長月**」が略され、「**長月**」となった。



～冬～

10月…神無月（かんなづき・かみなづき）。神を祭る月だから。「無」は「～の」。
または、**神様たちが出雲での大会議に出席するため、みんないなくなるから。**
11月…霜月（しもつき）。霜の降る寒い月だから。
12月…師走（しわす）。年末は、「**師（僧侶など）**」が忙しくて走り回るから。



今の4月が夏、8月が秋だなんて、ちょっと不思議な感じもしますが、それぞれに季節感がよく表れた名前ですね！そして、異名がサツと言えると、なんだか素敵でカッコいいですよ！さあみなさん、覚えよう！